

反町遺跡(東松山市) 弥生時代後期からの大規模集落遺跡/古墳時代後期には数多くの古墳が築造されたエリア

前方は東松山市の高坂にオープンしたショッピングモール「ピオニウォーク」/この開発に際して反町遺跡の発掘が行われた



都幾川を挟んだ反町遺跡の対岸には4世紀後半に野本將軍塚古墳が築造され、その北側(図の上部)には古墳時代前期の五領遺跡が展開している

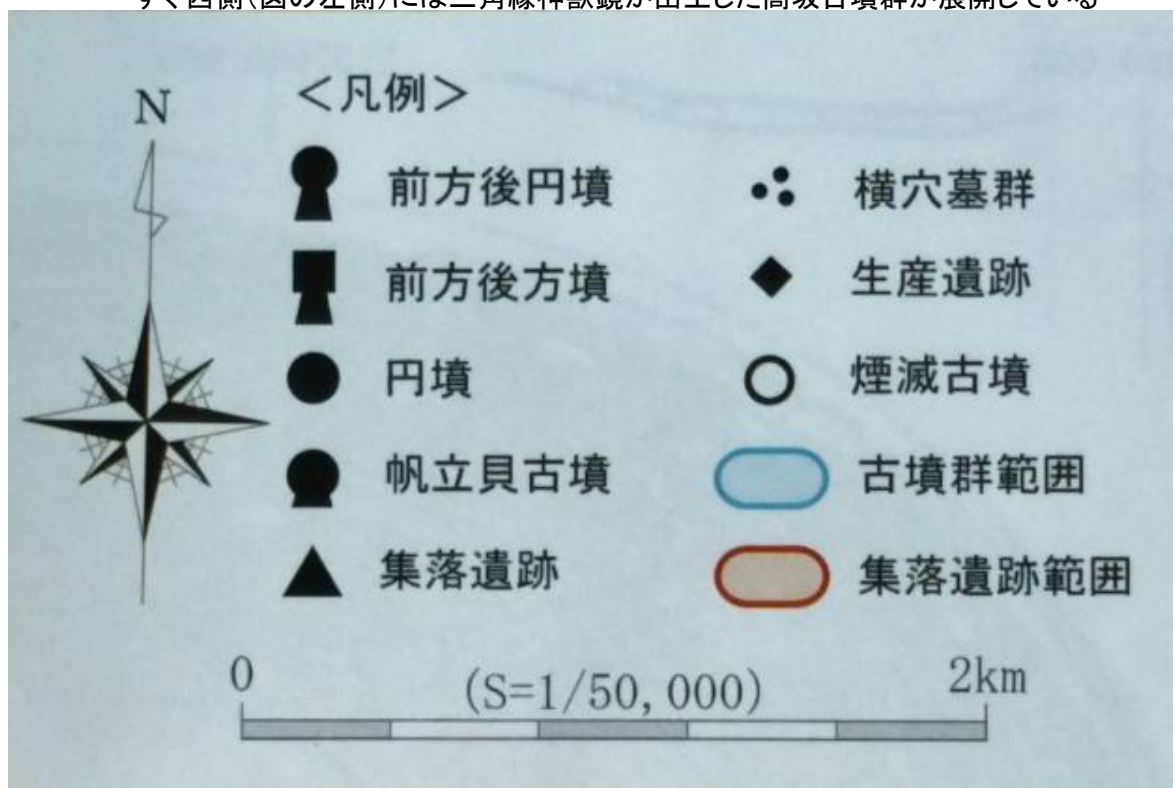


← 五領遺跡
(赤字)

← 將軍塚古墳
(赤字)

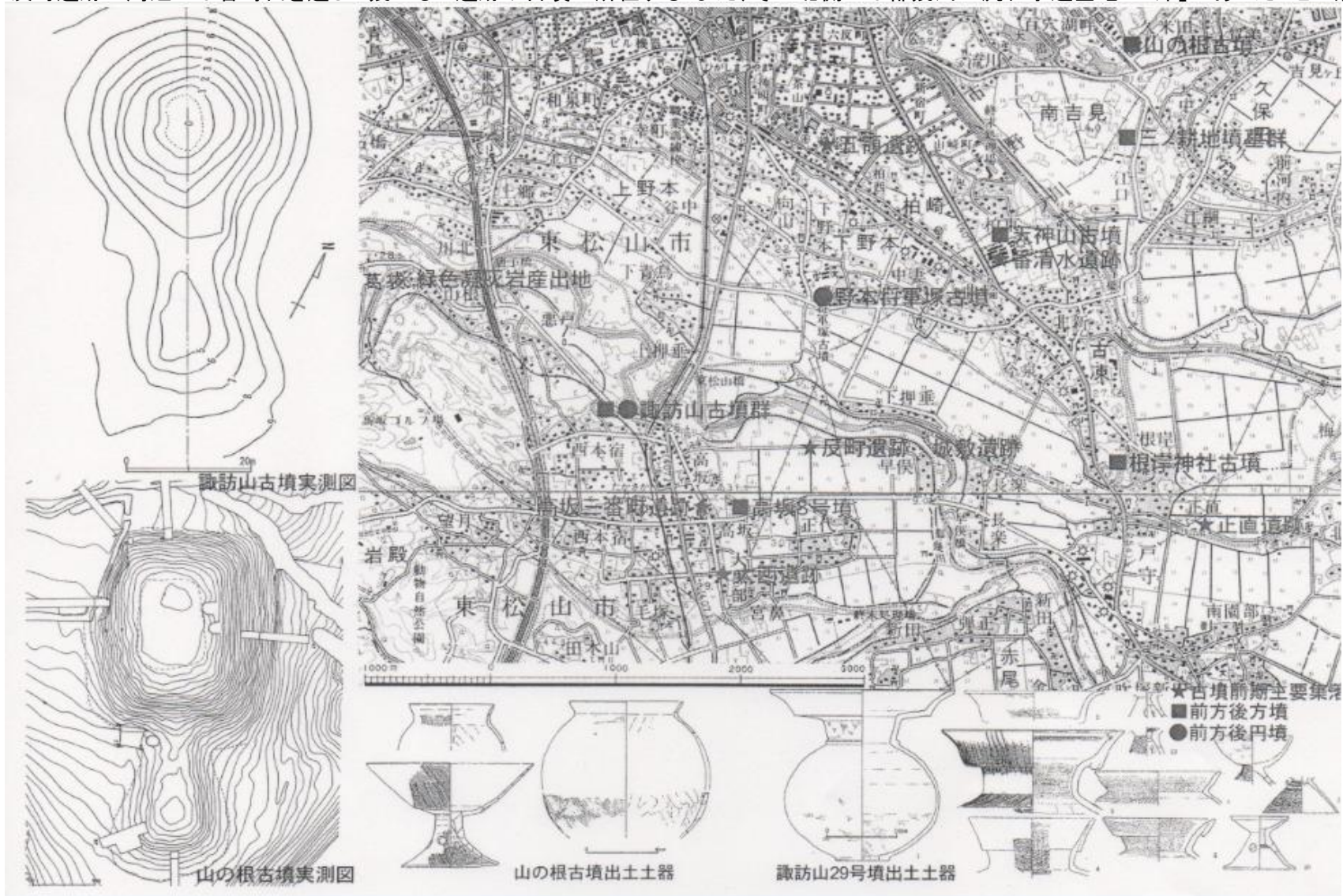
← 反町遺跡
(赤字)

すぐ西側(図の左側)には三角縁神獣鏡が出土した高坂古墳群が展開している



平成30年12月9日 「シンポジウム 野本將軍塚古墳の時代」の冊子より

反町遺跡の周辺には各時代を通じて幾つもの遺跡や古墳が所在する/また、その北側には都幾川が流れ水運基地の「津」があったことが窺える



大東文化大学オープンカレッジ平成26年秋期講座/考古学史を飾る埼玉の遺跡-埼玉の考古学史を学ぶ-/シリーズ講座 郷土の歴史を学ぼう/集落遺跡が語る東松山の3~4世紀の社会/資料編より

その都幾川に架かる橋から反町遺跡のエリアを見たところ



前方が「ピオニウーク」のエリア



H23.3.4～6に「ピオニウォーク」のホールで開催された反町遺跡展の様



この馬形埴輪も出土した



ピオニウォーク



いせきてん の遺跡展

主催／財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
共催／埼玉県教育委員会 後援／東松山市教育委員会

いま
多くの人でにぎわうピオ
ニウォーク東松山が建設された場
所の地下には、**そりまち**

反町遺跡

が眠っていました。

反町遺跡は、東松山市高坂に所在し、高坂台地の東側に広がる低地に立地しています。調査の結果、弥生時代から古墳時代へと社会が大きく変化する時代に営まれた大規模なムラの跡と、ムラが移動した後に築かれた古墳群が発見されました。



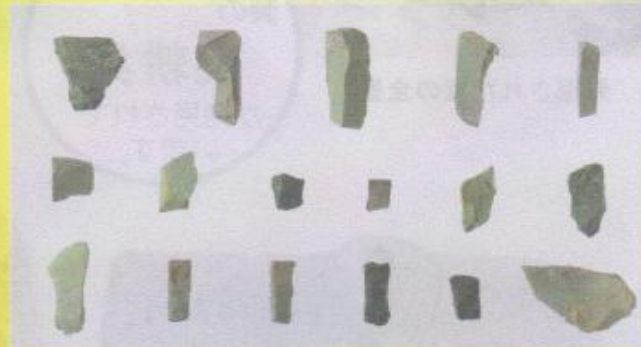
埼玉県で初めて発見された
ガラス小玉の鑄型



水晶製の勾玉（未製品）



碧玉製の勾玉



碧玉製の管玉（左）と、その作り方を示す未製品や破片

反町遺跡の出土品でもとくに注目されるのは、全国的にも貴重な発見である

ガラス小玉の鑄型^{いがた}

です。また、水晶や碧玉^{へきぎょく}を加工して、勾玉^{まがたま}や管玉^{くだたま}を製作した玉づくり工場の資料も発見されました。

1

人々が住み始めたころ (弥生時代後期 約 1,800 年前)

反町遺

跡にはじめて人々が暮らし始めたのは、弥生時代後期です。人々は都幾川のほとりの低地にムラをつくり、この地域に特徴的な文様をもつ

弥生土器

を使っていました。



櫛描き文様や縄文の文様が施されています。

2

低地を開発したパイオニア (古墳時代前期 約 1,700 年前)

反町遺

跡の人々は、最新の土木灌漑技術をもとに

堰

をつくり、低地の水田開発に挑戦





発掘された堰の全景

しました。さらに、新しい農耕
祭祀^{さいし}として、「玉の祭り」が行
われ、玉づくりの技術も
導入されました。

河川
跡からは、木
製の^{のうこうぐ}
農耕具
が発見されて
います。



臼



よこぐわ
横楯



たまたす
多又鋤

人々が行き交う豊かなムラの暮らし
(古墳時代前期 約 1,700 年前)

3

人々の
くらしは豊かにな
り、人口も増えてムラは大
きくなりました。人々の交流
が盛んになり、東海・畿内・北陸・
など、各地の影響を受けてつく
られた ^{はじき}
土師器
が出土しています。



北陸系



丹波系



近江系



反町遺跡



4

人々は去り、古墳ができる (古墳時代後期 約 1,500 年前)

繁栄していたムラは、やがて洪水などの自然災害に見舞われ、押し流された土砂に埋もれてしまいました。豊かな恵みの耕地は失われ、人々はムラを去っていきました。その後、古墳時代後期になると、新たにこの地を治めていた豪族たちの

こふん
古墳

がつくられるようになります。



古墳時代前期の鏡（内行花文鏡）



16基の円墳跡が発見されました。



男子埴輪

女子埴輪

古墳
跡から出土
した
埴輪
たち

馬形埴輪



財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
設立30周年記念事業 出土品展示会

平成23年3月4日(金)～6日(日)
ピオニウォーク東松山 2階ピオニホール

これは「ピオニウォーク」に常設されている展示ケース





反町遺跡 古墳群の全景

東松山市反町遺跡（そりまちいせき）

反町遺跡は、ここアピタ東松山店の建設用地内の地中に埋もれていました。そこで、埼玉県埋蔵文化財調査事業団では、平成十九年十月から一年をかけて発掘調査を行いました。その結果、弥生、古墳、奈良、平安時代にわたる人々の生活の痕跡が発見されました。

遺跡は、時代によってさまざまな姿に変化します。古墳時代の初めには、数多くの住居が造られ、この地域の中心的なムラでした。中でも、勾玉などを作った玉作工房やガラス玉を作った鋳型が発見されました。古墳時代中頃になると、ムラは姿を消し、前方後円墳を中心に円墳が造られ、古墳群が形成されるようになります。反町遺跡は、この地域の歴史を今に伝える貴重な遺産です。

このコーナーでは、反町遺跡を皆様に知っていたくため、調査成果の一部を展示しています。

（公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団）

こちらは東松山市埋蔵文化財センター



反町遺跡

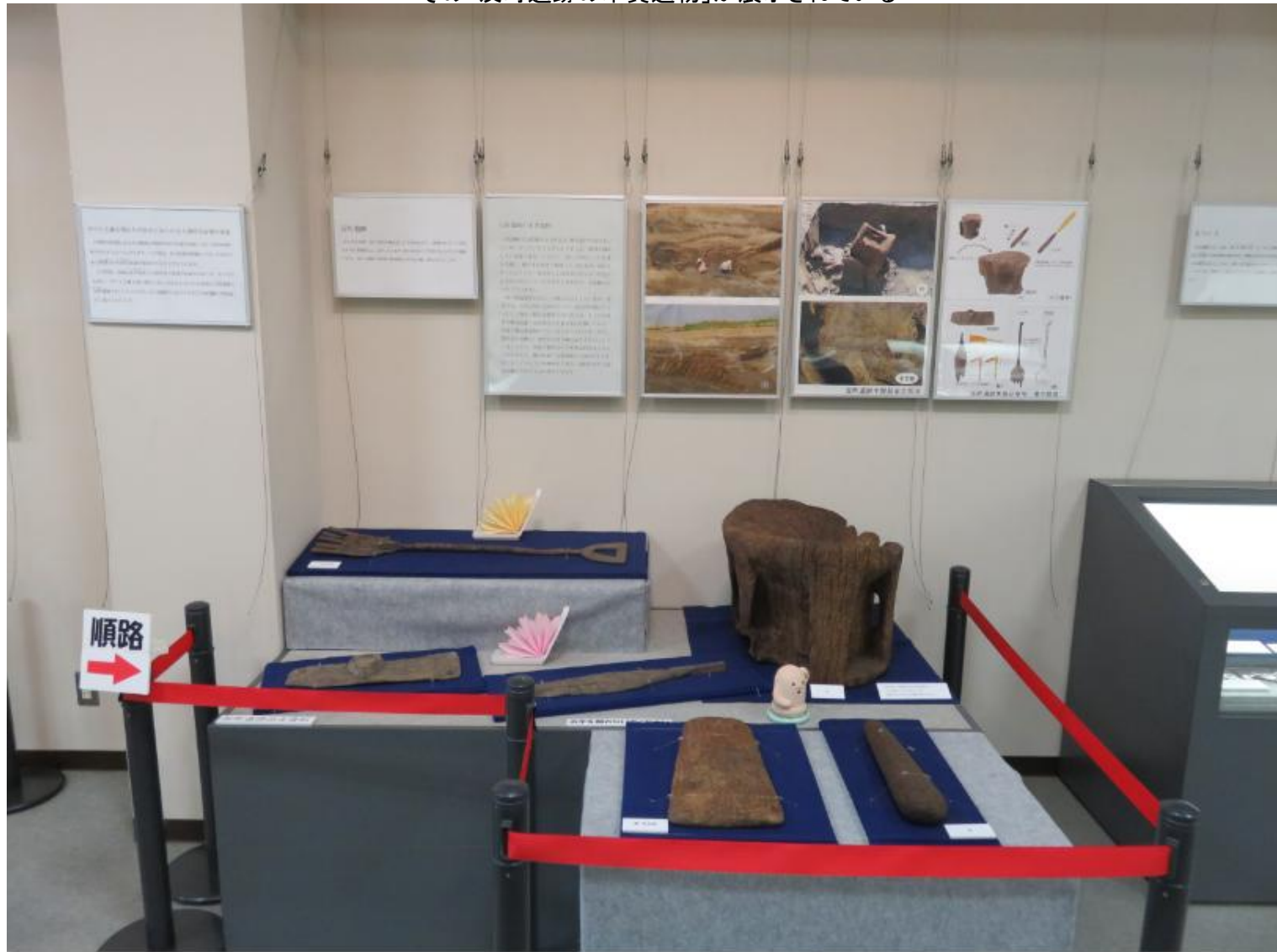
北に松山台地、南に高坂台地を見上げる低地にあり、都幾川によって形成された自然堤防上に立地しています。弥生時代から平安時代にかけての遺跡ですが、特に古墳時代前期の集落跡は県内最大級と推定されています。

反町遺跡の木質遺物

反町遺跡では都幾川を引き込み、堰^{せき}を設けて流れをコントロールしていたことが分かりました。樹種を選択している様子はないことから、近くに自生している木を伐採し、堰を作る場所で製材して300本近い部材を作ったようです。堰を作って流れを分水していた先には水田が広がっていたと考えられますが、水田跡は見つかっていません。

堰の構造部材のほか、木製品も出土しています。農具では、中央に切り込みが入っているのが特徴のスリット入り曲柄平鍬^{まがりまひらくわ}は長野県北部にみられ、ナスビ形曲柄平鍬は近畿・東海地方から東日本に伝播したもの、直柄平鍬^{なおまひらくわ}は関東地方でよくみられるものです。また、製作途中の鍬や、製作に必要な樹皮紐なども出土していることから、現地で製作された木製品があることも分かりました。鍬の樹種には関東地方の南岸にしか生育しないイチイガシが使われており、原材料または製品が搬入されたものと考えられます。

その「反町遺跡の木質遺物」が展示されている



東松山市埋蔵文化財センターの展示より 2019.4.22

臼



東松山市埋蔵文化財センターの展示より 2019.4.22

左手は鍬(未成品)、右手は杵



東松山市埋蔵文化財センターの展示より 2019.4.22

上段は一木多又鋤、下段左手は横鋤、右手はナスビ形鋤



東松山市埋蔵文化財センターの展示より 2019.4.22



反町遺跡木製品出土状況



反町遺跡木製品使用・復元略図

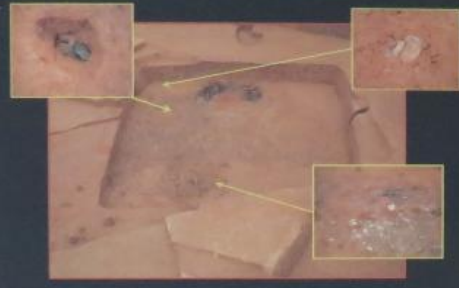
玉つくり

反町遺跡では、水晶、^{りよくしよくぎょうかいがん}緑色凝灰岩、メノウの玉製作跡や玉を磨く結晶片
岩の^{たまといし}玉砥石や砂岩質の置き砥石、鉄製の針やはずみ車などの工具とガラス小
玉の^{いがた}鋳型が出土しており、様々な玉製作が行われていたことが分かりました
このような三種類の玉製作が行われている遺跡は、関東地方では他にありま
せん。

反町遺跡の玉作り工房跡

玉づくり

反町遺跡では、水晶、緑色頁岩、メノウの玉製作跡や玉を磨く結晶片岩の玉砥石や砂岩質の磨き砥石、鉄製の針やはずみ車などの工具とガラス小玉の跡型が出土しており、様々な玉製作が行われていたことが分かりました。このような種類の玉製作が行われている遺跡は、関東地方では他にありません。



反町遺跡玉作り工房跡

水晶製玉工房

反町遺跡では、第2次調査で全面発掘した水晶製玉の工房跡も見つかりました。出土品は埼玉教育センター蔵。

反町遺跡では水晶製玉製作の技術はそれまで無いに上から、発掘者がやっていたものと推定されます。河内県平塚町の反町遺跡と群馬県山田町の水晶製玉工房跡は、水晶が採出する川筋に沿って分布していることが特徴です。また、ここでは、加工可能な水晶が採出され、そのまま残されていた。このように、玉に多少の欠けや傷があるものに、一定の量の玉が製作されたら採出するものが採出されたからと考えられます。多くの玉が採出されるのに、水晶製玉製作跡は「跡のみ」でした。これは玉製作現場が発掘されたことにより、他の玉の玉は、「磨り上げ」した特徴的な玉製物が入っており、採出された玉の跡型が特徴であると考えられます。出土した玉の跡型の中には使用が半端なものが多くあり、製作者が自ら採出したものと考えられます。そのような玉の跡型は、必ずしも、玉の跡型がそのまま採出されたと考えられます。

この内での「玉」は、製玉を行うために必要であり、玉の跡型は「玉」を採っていました。製玉に必要な玉を採掘した玉の跡型は、製玉の跡型に「玉」を採るために水晶製玉の跡型を採掘し、玉の跡型を採掘し、現場で一定期間「玉」を製作します。このように、玉の跡型と玉の跡型の関係は、玉の跡型は玉の跡型であり、「玉」を採掘する玉の跡型は、製玉の跡型と玉の跡型とされたと考えられます。

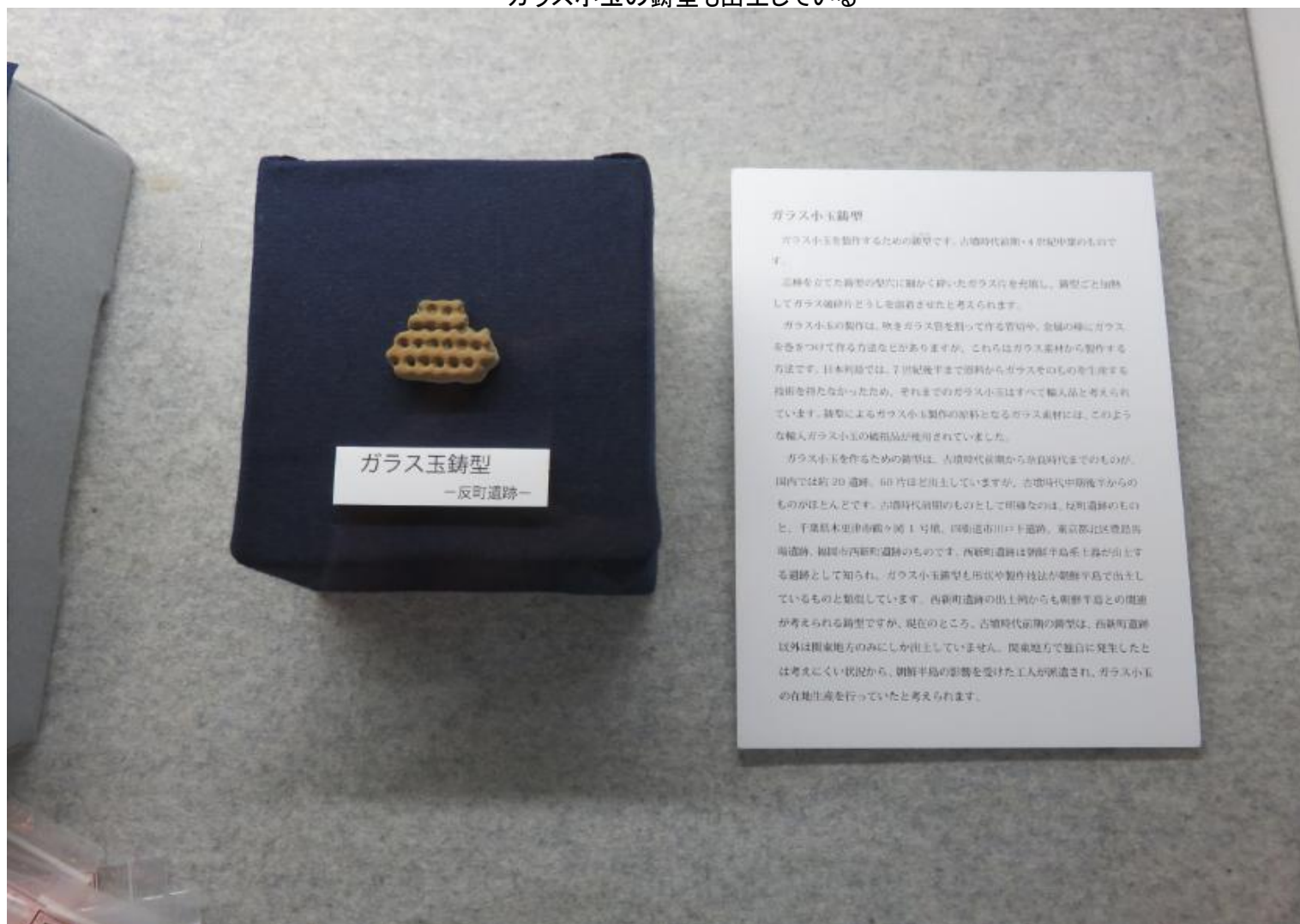


反町遺跡第268号住において、緑色凝灰岩の管玉の製作行程が復元できた



東松山市埋蔵文化財センターの展示より 2019.4.22

ガラス小玉の鋳型も出土している



ガラス小玉鑄型

ガラス小玉を製作するための鑄型いづなです。古墳時代前期・4世紀中葉のもので
す。

芯棒を立てた鑄型の型穴に細かく砕いたガラス片を充填し、鑄型ごと加熱
してガラス破砕片どうしを溶着させたと考えられます。

ガラス小玉の製作は、吹きガラス管を割って作る管切や、金属の棒にガラス
を巻きつけて作る方法などがありますが、これらはガラス素材から製作する
方法です。日本列島では、7世紀後半まで原料からガラスそのものを生産する
技術を持たなかったため、それまでのガラス小玉はすべて輸入品と考えられ
ています。鑄型によるガラス小玉製作の原料となるガラス素材には、このよう
な輸入ガラス小玉の破損品が使用されていました。

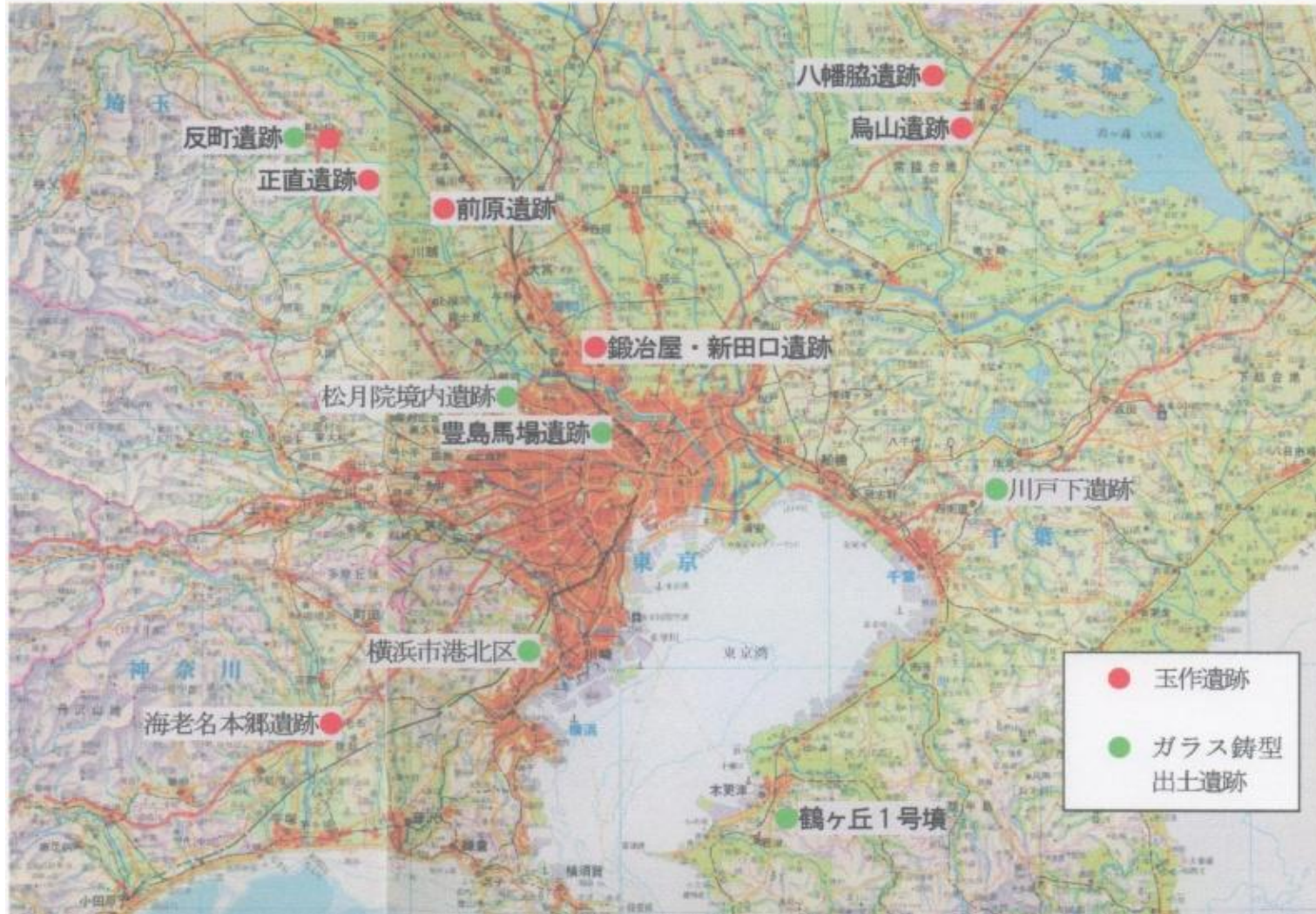
ガラス小玉を作るための鑄型は、古墳時代前期から奈良時代までのものが、
国内では約 20 遺跡、60 片ほど出土していますが、古墳時代中期後半からの
ものがほとんどです。古墳時代前期のものとして明確なのは、反町遺跡のもの
と、千葉県木更津市鶴ヶ岡 1 号墳、四街道市川戸下遺跡、東京都北区豊島馬
場遺跡、福岡市西新町遺跡のものです。西新町遺跡は朝鮮半島系土器が出土す
る遺跡として知られ、ガラス小玉鑄型も形状や製作技法が朝鮮半島で出土し
ているものと類似しています。西新町遺跡の出土例からも朝鮮半島との関連
が考えられる鑄型ですが、現在のところ、古墳時代前期の鑄型は、西新町遺跡
以外は関東地方のみにしか出土していません。関東地方で独自に発生したと
は考えにくい状況から、朝鮮半島の影響を受けた工人が派遣され、ガラス小玉
の在地生産を行っていたと考えられます。

図8 日本列島における弥生時代～古墳時代にかけての主な玉作遺跡



大東文化大学オープンカレッジ平成25年秋期講座/古代埼玉のものづくりのムラ/シリーズ講座 郷土の歴史を学ぼう/玉をつくるムラ より

図7 古墳時代前期における関東の主な玉作遺跡



反町遺跡の土器

この遺跡には在地の土器である五領式土器のほか、他地域の系譜を引く土器（外来系土器）が出土しています。東海西部系、東海東部系、畿内系、近畿北部系、中国地方系、北陸系の土器です。複数の地域の土器が出土している遺跡はありますが、すべてがそろった遺跡は県内に反町遺跡のほかはありません。

反町遺跡出土の土器



東松山市埋蔵文化財センターの展示より 2017.8.24

山陰系

北陸西部・丹後系

北陸系

吉備系

東松山市

地元の土器
(五領式土器)

畿内系

東海西部系

東海東部系

外来系土器の流れ

※財団法人埼玉埋蔵文化財調査事業団「反町遺跡Ⅱ」より一部改変

五領遺跡と反町遺跡

こういったそれぞれの出土遺物や遺構を見てみると、反町遺跡はヤマト王権の経済圏を拡大するために、先進技術を伴って遠方からやってきた人々が形成した技術拠点であり交流拠点の集落であり、五領遺跡は首長クラスの住まいの周辺に営まれた集落と考えられます。このように市域にはヤマト王権に大いに関わりのある集落が形成され、前期古墳が築造されていくのです。

反町遺跡の北側を流れる都幾川の対岸には埼玉県内でも有数の規模を誇る將軍塚古墳が所在する/その近くに五領遺跡が展開している

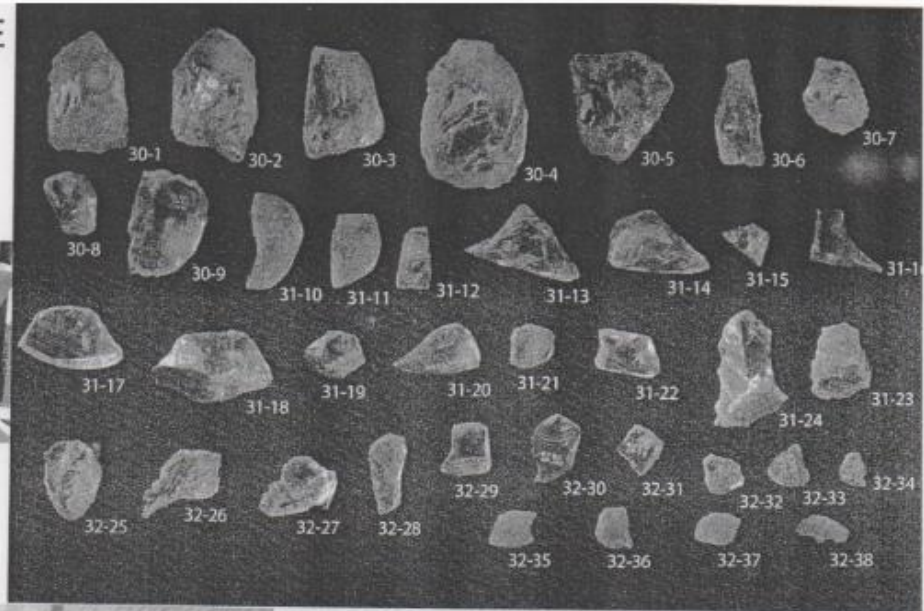


都幾川の水運基地の「津」を利用していたと思われる反町遺跡と周辺の遺跡の関連遺物

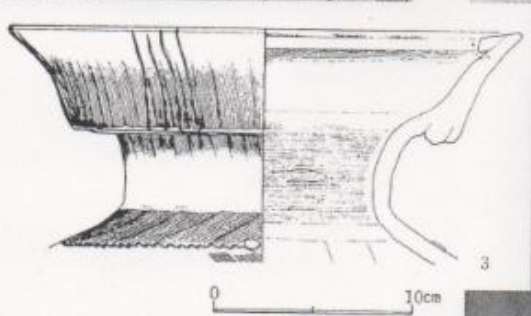
反町遺跡と周辺の出土品が示す津の存在
 地元産以外の玉類関係の石材
 水晶・瑪瑙・黒耀石など
 水晶は富士川経由で運搬か
 大廓式土器の大型壺→沼津経由を示唆



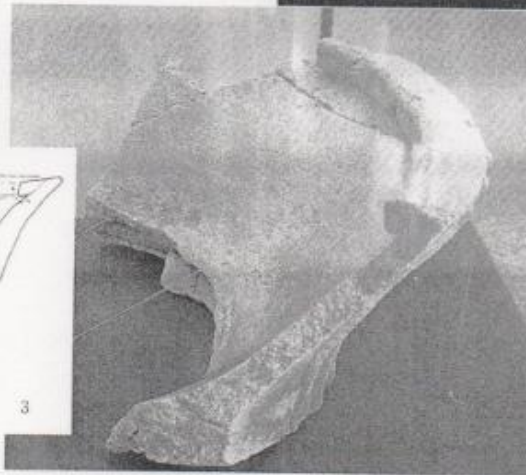
高坂三番町遺跡



48号住居跡出土の玉製品(1)(第30~32期)
 反町遺跡出土の玉素材類



諏訪山29号墳



高坂二番町遺跡



川島町富田後遺跡

五領遺跡は首長クラスの住まいの周辺に営まれた集落/反町遺跡はヤマト王権の経済圏を拡大するために先進技術を伴って遠方からやって来た人々が形成した技術拠点であり交流拠点の集落/この違いが発掘調査により明らかにされたということらしい

ヤマト王権と関わりがあるとみられる古墳時代前期の集落

古墳時代前期になると沖積地の開発や河川交通の発達により、河川流域に村が作られるようになります。この頃は、まだ比較的制御しやすい小河川である都幾川ときがわや市野川いちのかわ流域が選ばれたものと考えられます。

この時期、市域には外來系がいらいけいの土器を伴う集落が形成されました。その中でも特に、ヤマト王権と深い関わりあいがあるとみられる集落は五領遺跡ごりょうと反町遺跡そりまちです。しかしながら、出土遺物から見えてきたこの両遺跡の性質は、全く違うものでした。

これは都幾川の対岸に所在する4世紀後半築造とされる墳丘の全長115mの大型前方後円墳である野本將軍塚古墳から反町遺跡のエリアを見たところ



参考ホームページ

<http://www.saimaibun.or.jp/h19/320.htm>

<http://www.saimaibun.or.jp/h18/356.htm>

<https://blog.goo.ne.jp/kuragesuke/e/34cf1b0a3610c1f8995517c3524f7a23>

<http://nekobus.hatenablog.jp/entry/20100402/1270188644>

https://blogs.yahoo.co.jp/ken_kohun/67076158.html?_yvsp=5Y%2BN55S66YG66Leh

http://kodairekibunkyo.jp/data/tama_saitama.html

